



令和5年度に新しく着任された先生方よりご挨拶



名古屋市教育委員会連携推進准教授

湯浅 郁也先生

高大連携で名古屋市立工芸高等学校から派遣されている湯浅郁也と申します。一年間という短い期間ですが、宜しくお願ひ致します。前期は「NCUラーニング・コンパス」を部分的に担当させていただきます。4月の着任より後期に担当する授業のシラバス作成や連携先との打ち合わせなど、高校とは異なる業務に戸惑いつつも充実した毎日を過ごしています。

私が高大連携に興味を持ったきっかけは、高校で探究的に学んだ生徒たちが大学でどのように学びを深めていくかについて自身に関心を持つようになったことにあります。「NCUラーニング・コンパス」で新入生たちが分野の枠を超え、“学ぶ意味を探究的に学ぶ”課程に授業担当者の一人として関わることができるのは、私にとって大きな意味があり、同時にその重要性を日々感じているところです。後期の授業では名市大生と市立高校生をつなぐ授業を構想中です。学外の協力を仰ぎながら大学生と高校生が協同的に学ぶ場の設定ができればと考えています。また現職の教員として所属校をはじめとする教育現場の状況についても伝えていきたいと思ひますので、今後とも宜しくお願ひ致します。

写真は工芸高校グラフィックアーツ科の生徒が撮影してくれたものです。



語学講師

リン ワンジュン先生

こんにちは。リン・ワンジュン (Wan Jung Lin) と申します。エイミーと呼んでください。台湾に生まれ育ち、大学卒業後すぐにアメリカへ移住、帰化し、アメリカ人として2013年に文部科学省のJETプログラムでALTとして来日しました。5年間、幼稚園、小学校、中学校で教えました。半年間、私立高校の非常勤として英語を教えた後、2019年から大学で英語を教えています。さまざまなレベルの生徒を教えた経験から、自分の語学学習経験を振り返りつつ、日本の生徒が英語でコミュニケーションをとる動機は何かということを常に考えてきました。そして、私たちは皆、異なる言語でエンパワーメントを感じた瞬間が必ずあり、それには意味や目的、葛藤が込められているはずだと確信するようになりました。私の場合、移民という特殊な背景があるため、自分のアイデンティティが変わるたびに、差別されるたびに、常に反省し、評価し、セルフトークをしました。

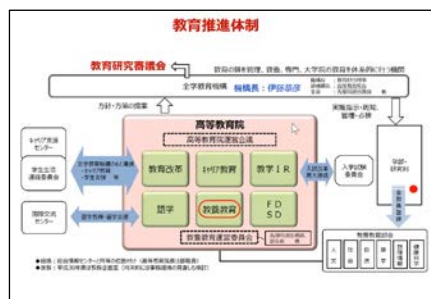
周りの友人ともよく話し合っ、悔しさや悩みを抱えながら、何年も考え続けました。このように自分のアイデンティティを周り話し合う過程で、私の日本語は飛躍的に向上しました。このことは私の教育哲学にも大きな影響を与え、授業では常に社会正義、差別、多様性、多文化共生といったテーマを取り入れています。仕事以外では、音楽、歌、山登り、旅行、地学などを楽しんでいます。これから学生と共にさまざまな問題を学び、探求し、共に日本の生活・労働環境を改善するために奮闘することを楽しみにしています。



新任教員研修を開催しました！

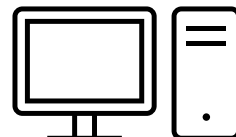


令和5年5月25日（木）、新任教員を対象とした令和5年度新任教員研修がZoomによるオンライン配信で開催されました。高石高等教育院長により、「各市大教員に求められもの」をテーマに約30分間の講演が行われました。参加者アンケートでは「Zoomでの実施」「要点を短時間で説明」という点が評価され、現在の大学教育の方向性や本学の教養教育への関わりに関心を高める機会として大変有意義なものとなりました。なお、教職員限定イントラサイトに、当日の資料や新任教員用マニュアルを掲載しております。



キーワード

「遠隔授業」と「遠隔授業科目」



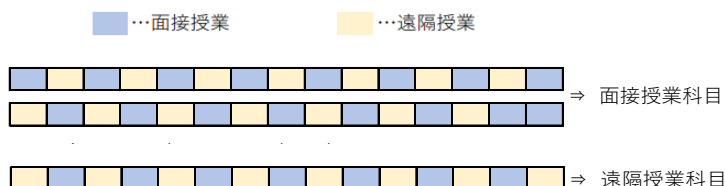
新型コロナウイルス感染症拡大による遠隔教育の急速な普及を受け、文部科学省は各大学に対し、遠隔教育の質保証や面接授業と遠隔授業を効果的に組み合わせたハイブリッド型教育の確立を求めています。本学では、「『多様なメディアを高度に利用して行う授業』（遠隔授業）の実施等に関するガイドライン」を定め、遠隔授業の実施について各学部・研究科（教養教育については高等教育院）で審議の上、全学教育機構へ報告することとしています。

「遠隔授業」とは・・・

当該授業を行う教室等以外の教室（研究室や自習室等）や自宅等において、1回の授業の開始から終了までの全時間に渡り、インターネット及び学習管理システム等を利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱う授業を指します。

「遠隔授業科目」とは・・・

上記の「遠隔授業」で実施する授業回数が、当該授業の全開講回数の半数以上となる授業科目のことを本学において遠隔授業科目と呼ぶものとしています。



大学設置基準では、遠隔授業科目の単位数は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、原則、60単位を超えないものとして上限が設定されています。遠隔授業を実施する際には、学生一人一人へ確実に情報を伝達する手段や、学生からの相談に速やかに応じる体制が確保されているかなど、面接授業に相当する教育効果を有するかどうかポイントになります。詳しい運用については、ガイドラインをご覧ください。

<https://intra.nagoya-cu.ac.jp/intra/academic-affairs/guide/enkaku/>

(教職員限定イントラサイト:ホーム> 教務情報 > 教務関係ガイドライン等 > 遠隔授業)

遠隔授業を面接授業の代替として捉えるのではなく、双方の良さを最大限生かしたより効果的な教育方法について、今後も積極的に検討を進めていきます。

